

極低温科学センターだより第 10 号の発刊にあたって

極低温科学センターだより編集委員 落合 明

「極低温科学センターだより」は平成 12 年に第 1 号が発刊されて、今回で第 10 号を迎えることになりました。実は、私が極低温科学センターに赴任したのが第 1 号発刊の年であり、第 1 号から今日まで編集委員として本冊子の発刊に携わってまいりました。そのためか、これまでは本冊子に掲載する記事のご執筆を皆様をお願いする立場でしたが、この巻頭言の原稿を仰せつかってしまいました。そこで、今回は編集委員の立場から本冊子について改めて紹介したいと思います。

本センターは平成 8 年に発足した組織ですが、これは片平地区の低温センターと青葉山地区の極微量エネルギー実験施設の二つの組織が発展的統合をしたものです。これに伴いスタッフもほぼ一新されたことから、センターからの情報発信のあり方についても議論がなされ、従来の「センターだより」及び「低温センター広報」をより発展的な形で引き継ぐ広報誌として本冊子が発刊されることになりました。

本冊子の記事は、「研究ノート」及び「技術ノート」のページと、各種の「センターからのお知らせ」のページの二本柱から構成されており、この基本構成は第 1 号からずっと踏襲されております。「研究ノート」では、読者の皆様に液体ヘリウムを利用した興味深い研究についてご執筆をお願いしております。一方、「技術ノート」は低温研究に活用される低温技術の紹介・解説です。このページはその性格上、センター関係者による執筆が多くなっておりますが、役に立つ低温技術をお持ちの方は低温研究振興のためにも、ご寄稿頂ければ幸いです。

上記の二つのノートに比して、「センターからのお知らせ」のページには、その折々の状況が大きく反映されています。特に、大学の独立行政法人化とそれに伴う組織改変は「センターからのお知らせ」のページにも少なからず反映され、それに呼応して外部に発信する情報が変化していく様子が読み取れます。特に大きなページの変化は、第 5 号から共同利用機器利用による成果のページと液体ヘリウム利用による成果のページが追加されたことです。これは、本センターが学内共同研究教育施設として役割を果たすのは当然ですが、その結果としてどのような成果が得られているかも問われているためです。このために、皆様にはアンケート等でご協力頂いており、深く感謝しております。

最後に、毎年の編集委員会でいつも議論になるのが、表紙の写真です。幸いこれまでは何とか良い写真を掲載できておりますが、毎年どうしようかと編集委員全員で悩んでおります。本冊子の表紙にふさわしい写真をお持ちの方は、お近くの編集員までお声掛け下さい。